

## 実体経済の動向

### ◇生産・出荷は前月大幅増加のあとも増勢を持続、在庫は3か月連続の増加

(生産——増勢持続)

11月の鉱工業生産(速報、季節調整済み(注)、前月比)は+1.0%と前月(+2.6%)に引続き増加した(前年同月比+9.7%)。

(注) 以下増減率は特に断わらない限り、前月比または前期比(物価を除き季節調整済み)。

11月の生産を財別にみると、資本財輸送機械、非耐久消費財が減少し、生産財もほぼ横ばいとなったが、その他の財は増加し、特に一般資本財の伸びが目立った。すなわち、一般資本財は特殊産業機械、産業用電気機械が減少したものの、化学機械が、輸出向けを中心に大幅増加を示し、製造業設備投資関連の金属加工機械や合理化投資関連の事務用機械なども増加したため、全体では大幅増加となった。建設財は建設用金属製品(アルミドア等)が増勢を続けたほか、燃料制約の解消し

たセメントや輸内需堅調の鉄鋼(棒鋼、形鋼)も増加したため、前月に引続き増加した。耐久消費財も暖ちゅう房熱機器等が減少したものの、民生用電気機械(電気洗たく機、電気冷蔵庫等)やラジオ・テレビ・音響装置が増勢を続けたほか、輸内需好調の光学機械・同部品、時計なども増加したため全体では前月に引続き増加した。

一方、資本財輸送機械は、トラックが小幅増加となったものの、普通自動車、船舶等が減少したことから、また非耐久消費財も繊維二次製品、日用品(家庭用合成洗剤、家庭用薄葉紙)等が減少したことから、いずれも前月増加のあと減少となった。

この間、生産財では出荷好調の一般機械部品(軸受、固定比変速機)や、非鉄地金、鉄鋼(鉄鋼素製品、冷間仕上鋼材)等が増加したものの石油化学製品(BTX、有機薬品、プラスチック)、紡績、織物等の減少から全体では横ばいとなった。

(出荷——小幅ながら増勢持続)

11月の出荷(速報)は+0.4%(船舶を除くと+0.6%)と前月大幅増加(+3.9%)のあとも引続き増勢を持続した(前年同月比+8.6%)。

### 鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)

	53年		54年				54年		
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	9月	10月	11月		
鉱工業	126.2	128.5	131.6	134.2	133.3	136.7	138.1		
指数									
前期(月)比	2.2	1.8	2.4	2.0	-1.5	2.6	1.0		
前年同期(月)比	7.7	7.4	8.0	8.7	6.9	9.0	9.7		
投資財	3.2	1.9	1.6	2.8	-2.3	3.2	3.1		
資本財	3.2	1.3	2.6	3.9	-3.3	3.2	3.8		
同(輸送機械を除く)	5.3	2.6	1.9	2.5	-4.2	2.5	5.7		
輸送機械	-2.9	-2.2	6.4	5.3	-1.3	7.9	-1.2		
建設財	3.1	2.1	0.1	0.7	-0.3	3.1	1.6		
消費財	1.7	1.4	2.9	2.8	-1.3	2.4	1.1		
耐久消費財	1.9	2.0	5.3	7.4	-1.8	1.2	3.1		
非耐久消費財	1.4	1.0	0.9	-0.2	-1.5	3.1	-0.5		
生産財	2.0	2.4	2.5	0.8	-0.6	1.7	0.1		

(注) 通産省調べ。54年11月は速報。  
前年同期(月)比は原指数による。

### 鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)

	53年		54年				54年		
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	9月	10月	11月		
鉱工業	124.1	126.9	129.6	130.9	129.3	134.3	134.9		
指数									
前期(月)比	2.0	2.3	2.1	1.0	-2.0	3.9	0.4		
前年同期(月)比	6.5	6.7	7.8	7.5	5.2	8.8	8.6		
投資財	2.3	2.5	0.9	2.9	-3.2	6.0	0.0		
資本財	1.9	3.0	-0.1	4.4	-4.0	8.0	0.3		
同(輸送機械を除く)	4.0	3.8	-1.0	4.5	-5.6	7.4	3.0		
輸送機械	-2.5	1.0	3.9	2.5	-4.9	11.9	-4.8		
建設財	3.4	0.8	2.2	1.2	-1.5	2.6	-0.2		
消費財	0.4	2.8	3.3	0.1	-1.0	2.7	0.7		
耐久消費財	-0.1	3.0	6.8	3.2	0.1	2.1	0.6		
非耐久消費財	1.0	2.4	1.0	-2.4	-2.9	3.8	0.8		
生産財	2.6	2.3	2.1	0.2	-2.2	3.1	0.6		

(注) 通産省調べ。54年11月は速報。  
前年同期(月)比は原指数による。

11月の出荷を財別にみると、資本財輸送機械、建設財が減少したほかは各財とも増加した。すなわち、一般資本財は、金属加工機械、繊維機械が反動減となったものの、輸出好調の化学機械が著増したのをはじめ、事務用機械、農業機械なども増加したため全体ではかなりの増加となった。耐久消費財は暖冬による売行き不振の暖ちゅう房熱機器や、輸出一服の二輪自動車が増減したものの、輸内需好調の時計、民生用電気機械(電子レンジ、電気冷蔵庫)が増加したことから全体では小幅増加となった。非耐久消費財も、灯油が本格的な需要期入りに伴う流通筋の手当増から増勢を続けたほか、浴用石けん、家庭用薄葉紙などの日用品も増加したため、2か月連続の増加となった。この間、生産財では、石油化学製品(有機薬品、環式中間物、プラスチック等)が仮需のはく落から減少したものの、部品類(一般機械部品、通信・電子部品)、アルミ地金、段ボール原紙等が内需の堅調から、また銅地金もスポット輸出の増加から、いずれも増加したため、全体では小幅増加となった。

一方、資本財輸送機械は、トラックが輸出の好調(小型トラック)や54年度公害規制実施を控えた駆け込み需要(普通トラック)から増加したものの、小型自動車、普通自動車、バスが前月著増の反動から減少したため、全体では前月大幅増加のあと減少した。建設財も、輸内需堅調の棒鋼、形鋼が増加したものの、仮需はく落のアルミサッシ等建設用金属製品の落込みを映じて全体では微減となった。

#### (在庫——3か月連続の増加)

11月の生産者製品在庫(速報)は+0.4%と3か月連続の増加となったが、同在庫率(50年=100)は76.7と減少した(前月77.4)。

11月の在庫を財別にみると、生産財が減少したほかは各財とも増加した。すなわち、一般資本財は、生産好調の事務用機械のほか建設機械、産業用電気機械等の増加もあって4か月ぶりに増加した。資本財輸送機械は前月輸出船待ちから著増し

た小型自動車が微減となったものの、トラックが増勢を続けたことから、また建設財では、セメント、土石製品、建設用金属製品などの増加から、いずれもかなりの増加となった。この間、耐久消費財は、生産好調の民生用電気機械、ラジオ・テレビ・音響装置や輸出一服の二輪自動車が増加したことから、また、非耐久消費財も灯油、日用品(家庭用合成洗剤、家庭用薄葉紙)等の増加から、いずれも前月に引続き増加した。

一方、生産財をみると石油化学製品(BTX、有機薬品、プラスチック)は減産にもかかわらず仮需のはく落から、積上がったものの、石油製品が生産調整からまた、非鉄地金、段ボール原紙、通信・電子部品は出荷好調から、いずれも減少したため、全体では4か月ぶりの減少となった。

(設備投資——一般資本財出荷は増加、機械受注<船舶、電力を除く>は小幅の反動減)

11月の一般資本財出荷(速報)は+3.0%と前月大幅増加(+7.4%)のあとも増勢を続けた。品目別にみると、前月著増の金属加工機械、特殊産業機械、繊維機械が反動減となったものの、合理化投資関連の事務用機械のほか、エレベータ、通

### 鉱工業在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減(-)率・%)

	53年	54年			54年			
	(期末)	12月	3月	6月	9月	9月	10月	11月
鉱指数	102.1	102.2	100.2	102.7	102.7	104.8	105.2	
工業	前期(月)末比	0.4	0.1	-2.0	2.5	1.9	2.0	0.4
業	前年同期(月)末比	-2.9	-1.5	-2.3	1.0	1.0	2.6	2.9
投資財	0.0	2.8	-1.9	-1.0	0.2	1.7	1.8	
資本財	0.2	-0.1	2.3	0.4	0.2	2.5	1.2	
同(輸送機械を除く)	0.2	3.2	0.2	-0.8	-0.1	-0.3	0.8	
輸送機械	-0.6	-3.9	3.7	3.9	2.2	4.4	2.4	
建設財	0.2	6.3	-6.4	-3.4	-0.8	1.4	2.6	
消費財	5.6	0.2	-4.6	4.7	2.4	4.6	1.4	
耐久消費財	7.1	6.0	-2.3	6.5	1.4	3.7	0.8	
非耐久消費財	3.8	-4.9	-6.2	4.2	3.7	4.8	2.2	
生産財	-2.1	-1.9	-0.2	2.6	2.6	0.4	-0.9	

(注) 通産省調べ。54年11月は速報。  
前年同期(月)末比は原指数による。

信機械などかなりの増加となった。

11月の機械受注(船舶、電力を除く民需)は、-2.5%と前月大幅増加(+26.4%)のあと小幅減少となったが、前年同月との比較では+10.3%と高水準を持続している。業種別にみると、製造業からの受注は、自動車の増勢持続にもかかわらず、前月著増した鉄鋼、機械などの反動減から-11.4%の減少となった。一方、非製造業(船舶、電力を除く)からの受注は、運輸、建設等の増加から+7.2%と5か月連続の増加となった。なお電力は前月大幅減少(-52.6%)のあと-0.1%とほぼ横ばいとなった。

この間、官公需は、前月大幅増加(+21.1%)のあとも、電電公社からの発注増を映じて+4.1%と引続き増加した。

#### ◇11月の小売商況は、持直し

11月の全国百貨店売上高(通産省調べ)は、前月落込み(-3.6%)のあと+3.6%と持直した(前年同月比+8.0%)。

品目別にみると、冬物衣料品が中旬以降の寒波到来から持直したほか、食料品、家庭用品もギフト需要の出足好調を映じて好伸した。12月についても、衣料品は寒気の引緩みからやや伸び悩んだものの、ギフト需要の好伸に支えられ全体ではまずまずの伸びとなった模様である。

12月の主要耐久消費財の販売状況を見ると、乗用車新車登録台数(軽を除く)は、-1.0%と前月や

や持直し(+0.8%)のあと再び減少した(前年同月比-3.0%)。一方、家電製品は、暖冬の影響から暖房器具が不ぞえのほかは、カラーテレビ、音響機器(ステレオ、テープレコーダー)、VTR等を中心に引続き好調な売行きを示した。

#### ◇商況の基調——続伸

12月の商品市況をみると、石油化学製品(塩ビ、高圧ポリエチレン)、紙(上質紙、白板紙等)が前月に続き騰勢一服となったものの、条鋼類(山形鋼、棒鋼)、くず鉄、合繊(ポリエステル・フィラメント)、非鉄(銅、亜鉛、アルミ)が続伸したほか、前月軟化をみた鋼板類(厚板)、天然繊維(綿糸、生糸)、石油製品の一部(ガソリン、C重油)、製材(外材)、合板等も上伸したこと、などから全体としては続伸商況となった。

これは、①鉄鋼、非鉄が海外高(銅、亜鉛、アルミ)やこれまでの円安進行を映じた輸出増(条鋼類、銅)、輸入減(厚板、くず鉄)から続伸したこと、②合繊、セメントが前月に続き慎重な生産態度の維持により原燃料コスト高の価格転嫁を進めたほか、製材、合板でも輸入削減による在庫調整の効果がようやく顕現化しはじめ、市況も反発に転じたこと、③前月軟化をみた石油製品も元売り建値の引上げを背景に月央以降上伸に転じたこと、などを映じたもの。

#### (卸売物価——大幅続騰)

12月の卸売物価は、前月比+1.8%と前月(同+1.5%)を上回る大幅上昇となり、前年同月比でも+17.5%(前月同+16.1%)と一段と騰勢を強めた。

品目別には、為替相場が幾分円高化したことから輸出品が騰勢一服となったものの、輸入品が11月に遡及して値上げされた原油の入着を主因に急騰したほか、国内品も原料価格上昇や需給の堅調を映じて、石油製品(ガソリン、灯油、C重油)、非鉄金属(アルミ地金)、製材・木製品(外材製品、普通合板)を中心にかなりの上昇を示した。

#### 需要先別機械受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	54年			54年		
	1~3月	4~6月	7~9月	9月	10月	11月
民需	5,249 (11.7)	5,291 (0.8)	4,973 (-6.0)	5,654 (35.6)	5,368 (-5.1)	5,534 (3.1)
同(船舶・電力を除く)	3,475 (-3.7)	4,000 (15.1)	3,602 (-9.9)	3,477 (1.9)	4,396 (26.4)	4,285 (-2.5)
製造業	1,701 (-3.0)	2,132 (25.3)	1,827 (-14.3)	1,603 (-5.5)	2,502 (56.0)	2,216 (-11.4)
非製造業	3,479 (18.2)	3,156 (-9.3)	3,148 (-0.2)	4,073 (64.4)	2,903 (-28.7)	3,273 (12.7)
同(船舶・電力を除く)	1,774 (-5.1)	1,897 (7.0)	1,788 (-5.8)	1,915 (10.5)	1,938 (1.2)	2,078 (7.2)

(注) 経済企画庁調べ。カッコ内は前期(月)比増減(-)率(%)。

## 卸 売 物 価 の 推 移

(単位・%)

	ウエイト	54 年		54 年			
		7~9 月平均	10~12 月平均	9 月	10 月	11 月	12 月
総 平 均	1,000.0	4.9	4.3	1.4	1.1	1.5	1.8
食 料 品	140.9	0.6	0.9	0.1	0	0.9	0.6
非 食 料 農 林 産 物	18.9	13.5	3.0	0.5	0	2.3	2.1
織 維 製 品	62.9	1.1	1.6	0.7	0.6	0.3	0.1
製 材・木 製 品	33.6	16.9	0.1	1.2	— 1.2	— 0.5	1.1
パルプ・紙・同製品	28.9	4.1	6.1	2.3	2.2	1.4	0.5
金 属 素 材	12.6	5.5	16.8	5.4	4.4	8.7	3.0
鉄 鋼	80.7	1.5	2.3	0.5	0.8	1.2	0.6
非 鉄 金 属	26.1	4.1	15.0	5.1	7.1	2.4	5.5
金 属 製 品	37.0	0.8	2.6	0.2	1.9	0.6	0.2
電 気 機 器	73.3	0.2	0.8	0.3	0.3	0.4	0.2
輸 送 用 機 器	74.0	0.5	1.4	0.2	0.6	1.1	— 0.4
一 般・精 密 機 器	95.7	0.4	1.1	0.4	0.4	0.4	0.4
化 学 製 品	91.1	7.7	5.3	2.3	1.7	1.2	0.7
石 油・石 炭・同製品	102.2	22.3	15.2	4.0	2.6	4.9	10.2
窯 業 製 品	30.5	2.1	4.7	2.9	1.7	0.9	0.3
電 力・ガ ス	25.5	3.2	4.8	1.8	1.1	1.7	1.8
雑 品 目	66.1	4.1	3.6	1.0	1.6	1.4	0.7
工 業 製 品	816.4	4.1	3.4	1.3	1.0	0.8	1.4
大 企 業 性 製 品	579.9	3.9	3.6	1.3	1.2	0.8	1.6
中 小 企 業 性 製 品	214.6	4.1	1.7	0.9	0.6	0.2	0.6
非 工 業 製 品	158.1	9.2	8.8	1.7	1.6	4.9	4.4

(注) 日本銀行調べ。

(消費者物価——12月<東京都区部、速報>は季節商品、石油製品等の値上りから上昇)

12月の消費者物価(東京都区部、速報)は、季節商品が12月としては6年ぶりに上昇したほか、石油製品等の値上りもあって前月比+0.5%の上昇となり、前年同月比では+5.5%と52年11月(同+6.3%)以来の高い伸びとなった。

季節商品の上昇は、10月の台風、長雨の影響が尾を引き野菜が反騰したほか、生鮮魚介も値上りしたことによるものであり、季節商品以外でも石油製品(灯油、ガソリン)、被服(ハンドバッグ、指輪)の値上りが目立った。

◇貿易収支、経常収支はいずれも既往最高の赤字

11月の国際収支をみると、輸出が減少した一方輸入が原油を中心に増加したことから、貿易収支

(1,202百万ドルの赤字、前月同360百万ドル)および経常収支(2,204百万ドルの赤字、前月同1,126百万ドル)はいずれも既往最高の赤字となった。もっとも、長期資本収支が対日証券投資の流入などから流出超幅を大きく縮小し(流出超864百万ドル、前月同2,437百万ドル)、短期資本収支も流入超幅を拡大(723百万ドルの流入超、前月同331百万ドル)したため、総合収支の赤字幅は前月に比べほぼ半減した(1,556百万ドルの赤字、前月同3,471百万ドル)。

なお、11月の季節調整後の貿易収支は前月に比べ赤字幅がやや拡大した(686百万ドルの赤字、前月同460百万ドル)。

この間、外貨準備高は20,166百万ドルと前月に引続き減少した(前月比3,107百万ドルの減少)。

## 消費者物価の推移

(単位・%)

		ウェイト	54年		54年			最近月の 前年同月比
			7~9月 平均	10~12月 平均	10月	11月	12月	
東	総合	100.0	0.9	1.9	1.6	-0.5	* 0.5	* 5.5
	季節商品を除く総合 (季節商品)	91.9 (8.1)	0.8 (-2.1)	1.5 (12.6)	0.4 (15.5)	0.2 (-7.4)	0.5 (* 1.1)	4.4 (* 19.0)
京	食料	40.1	0.9	2.0	3.2	-1.4	* 0.6	* 4.9
	住居	11.1	0.7	0.9	0.5	0.2	0.2	3.7
	光熱	4.2	2.4	2.4	0.7	0.6	1.5	14.9
	被服	12.4	0.5	5.9	1.7	-0.3	1.1	6.7
	雑費	32.2	0.8	0.9	0.2	0.3	0.3	5.4
全	総合	100.0	1.0	...	1.2	-0.4	...	4.9
	季節商品を除く総合 (季節商品)	91.7 (8.3)	1.0 (0.9)	... (...)	0.5 (10.0)	0.3 (-7.2)	... (...)	4.5 (10.2)
国	特殊分類							
	農水畜産物	16.3	0.6	...	5.2	-3.6	...	6.6
	工業製品	46.6	1.3	...	0.8	0.2	...	4.6
	うち大企業性製品	21.4	2.4	...	0.6	0.3	...	5.7
	中小企業性製品	25.2	0.3	...	1.0	0	...	3.6
サービス	33.6	0.9	...	0.1	0.4	...	5.2	

(注) 1. 総理府統計局調べ。

2. \* は速報。

## (輸出——増加)

11月の輸出(国際収支ベース、季節調整済み)は、前月比+5.2%と前月減少(-5.4%)のあと増加した(原計数の前年同月比では+2.0%)。品目別(通関ベース)は、船舶、事務用機器、二輪自動車等が減少した反面、鉄鋼、自動車、重電機器、合繊織物等は増加した。

12月の輸出信用状接受高(季節調整済み、前月比)は+3.6%と前月微減(-1.0%)のあと再び増加した。品目別には鉄鋼、繊維製品が減少した反面、自動車、電気機械はかなり増加した。

## (輸入——増加)

11月の輸入(国際収支ベース、季節調整済み)は、高値原油の到着増から前月減少(-5.1%)のあと、+7.4%と大幅増加となった(原計数の前年同月比では+39.7%)。品目別(通関ベース)にみると、化学製品、小麦、鉄鉱石等が減少した反面、原油、機械機器、綿花、とうもろこし等は増加した。

なお12月の輸入承認・届出額(特殊大口除外、季節調整済み前月比)は、前月減少(-4.4%)のあと微増(+1.4%)となった。

国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	54 年			54 年			前年11月
	1～3月	4～6月	7～9月	9 月	10 月	11 月	
経 常 収 支	△ 711	△ 1,126	△ 3,229	△ 780	△ 1,126	△ 2,204	592
貿 易 収 支	1,690	1,523	△ 355	177	△ 360	△ 1,202	1,356
輸 出	22,891	24,454	26,059	9,199	8,729	8,385	8,217
輸 入	21,201	22,931	26,414	9,022	9,089	9,587	6,861
貿 易 外 収 支	△ 2,054	△ 2,399	△ 2,617	△ 882	△ 672	△ 929	△ 725
移 転 収 支	△ 347	△ 250	△ 257	△ 75	△ 94	△ 73	△ 39
長 期 資 本 収 支	△ 3,570	△ 3,443	△ 1,877	△ 1,853	△ 2,437	△ 864	△ 1,837
本 邦 資 本	△ 4,654	△ 4,121	△ 3,970	△ 1,375	△ 1,306	△ 1,353	△ 1,633
外 国 資 本	1,084	678	2,093	△ 478	△ 1,131	489	△ 204
基 礎 的 収 支	△ 4,281 (△ 3,399)	△ 4,569 (△ 4,334)	△ 5,106 (△ 5,682)	△ 2,633 (△ 3,269)	△ 3,563 (△ 3,663)	△ 3,068 (△ 2,552)	△ 1,245 (△ 833)
短 期 資 本 収 支	264	△ 324	1,268	14	331	723	675
誤 差 脱 漏	714	794	117	287	△ 239	789	303
総 合 収 支	△ 3,303	△ 4,099	△ 3,721	△ 2,332	△ 3,471	△ 1,556	△ 267
金 融 勘 定	△ 3,303	△ 4,099	△ 3,721	△ 2,332	△ 3,471	△ 1,556	△ 267
外 貨 準 備 増 減	△ 4,206	△ 3,834	356	168	△ 2,062	△ 3,107	2,866
そ の 他	903	△ 265	△ 4,077	△ 2,500	△ 1,409	1,551	△ 3,133
外 貨 準 備 高	28,813	24,979	25,335	25,335	23,273	20,166	32,261
為 銀 対 外 ポ ジ シ ョ ン	△ 15,620	△ 16,133	△ 19,865	△ 19,865	△ 21,165	△ 19,715	△ 14,460

- (注) 1. 基礎的収支カッコ内は、貿易収支のみ季節調整した計数。  
 2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。  
 3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支ベース			通 関		輸 出	輸 入	輸入承認・
	輸 出	輸 入	貿易じり	輸 出	輸 入	信用状	認 証	届 出
54 年 1～3 月	8,084 (- 3.2)	7,226 (+ 4.1)	858	8,165 (- 3.9)	7,937 (+ 9.3)	5,853 (+ 3.1)	8,374 (- 3.5)	8,230 (+ 7.9)
4～6 〃	8,140 (+ 0.7)	7,554 (+ 4.5)	586	8,290 (+ 1.5)	8,511 (+ 7.2)	6,335 (+ 8.2)	8,627 (+ 3.0)	8,698 (+ 5.7)
7～9 〃	8,648 (+ 6.2)	8,958 (+ 18.6)	△ 310	8,794 (+ 6.1)	9,806 (+ 15.2)	6,527 (+ 3.0)	9,067 (+ 5.1)	10,708 (+ 23.1)
54 年 8 月	8,525 (+ 1.2)	8,744 (+ 0.8)	△ 219	8,670 (+ 1.5)	9,957 (+ 7.6)	6,458 (+ 2.0)	8,994 (+ 1.7)	11,598 (+ 8.7)
9 〃	8,996 (+ 5.5)	9,455 (+ 8.1)	△ 459	9,172 (+ 5.8)	10,210 (+ 2.5)	6,788 (+ 5.1)	9,364 (+ 4.1)	9,862 (- 15.0)
10 〃	8,510 (- 5.4)	8,970 (- 5.1)	△ 460	8,816 (- 3.9)	10,375 (+ 1.6)	6,824 (+ 0.5)	9,634 (+ 2.9)	11,710 (+ 18.7)
11 〃	8,951 (+ 5.2)	9,637 (+ 7.4)	△ 686	8,970 (+ 1.8)	10,854 (+ 4.6)	6,755 (- 1.0)	9,426 (- 2.2)	11,196 (- 4.4)

- (注) 1. 四半期計数は月平均。  
 2. カッコ内は対前期(月)比増減(-)率(%)。  
 3. 輸出信用状接受高および輸入承認・届出額は、特殊大口を除く。